



おもと

2025
44

www.omotokai.or.jp

TAKE FREE
ご自由にお持ちください

おもと天久の杜ANNE X落成
おもと天久の杜
ANNE Xがオープン！
地域包括ケアネットワークが
さらなる深化へ

OMOTO TOPICS

オレンジカフェ・美らとみぐすくのご紹介
おもと園が厚労大臣表彰・奨励賞を受賞

【新コーナー】
あたらしい仲間

聴こえや言葉の豆知識 05
辛い物やお酢でムせる！
それ実は喉が元気な証拠です

ガーデニング・ワンポイント 土袋とコンテナ栽培





おもと会の理念や伝統、未来像を形にしたのが新棟の**ANNEX**です



医療・介護・在宅まで
ワンストップでサービスを
提供できるんだよ



おもと天久の杜の新棟 ANNEX 誕生の背景や施設概要について、石井隆平理事が説明します。

「おもと会では1993年に前理事長が次の二つの理念を策定しました。

- 21世紀の世界に誇れるモデル事業として、医療・保健・福祉の総合一体化を実現し、地域社会に貢献する。
- 沖縄看護専門学校・沖縄リハビリテーション福祉学院をはじめ、おもと会の全組織をあげて、医療・保健・福祉の人材養成と生涯研修に貢献する。

これを具現化しているのが1988年開設の特養おもと園、1998年開設の天久の杜といった合築施設です。合築とは医療系サービスと介護系サービスの両方を提供する複合施設のこと。その新しい施設が、おもと

理念に基づく3つのプロジェクトを具現化したのが新棟 ANNEX

おもと天久の杜 ANNEX がオープン！
地域包括ケアネットワークがさらなる深化へ
医療・介護・在宅がつながる地域包括ケアの新拠点となる新棟「おもと天久の杜 ANNEX」が10月1日、ついに始動しました。その詳細を落成記念式典もあわせて紹介します。

天久の杜 ANNEX です。

ところで、大浜第一病院は開設以来16年で診療科目が三倍、入院単価は倍、職員もほぼ倍と急成長しており、増築したいという話が出ていました。一方で、一階にクリニック安里が同居していた安里のビルには在宅系サービス事業所が集まっていますが、建物は築50年を超えている状況です。

また、2024年には診療報酬と介護報酬のダブル改定があり、さらに双方の連携強化が国から示されました。そもそも、おもと会では以前から医療介護連携に力を入れています。

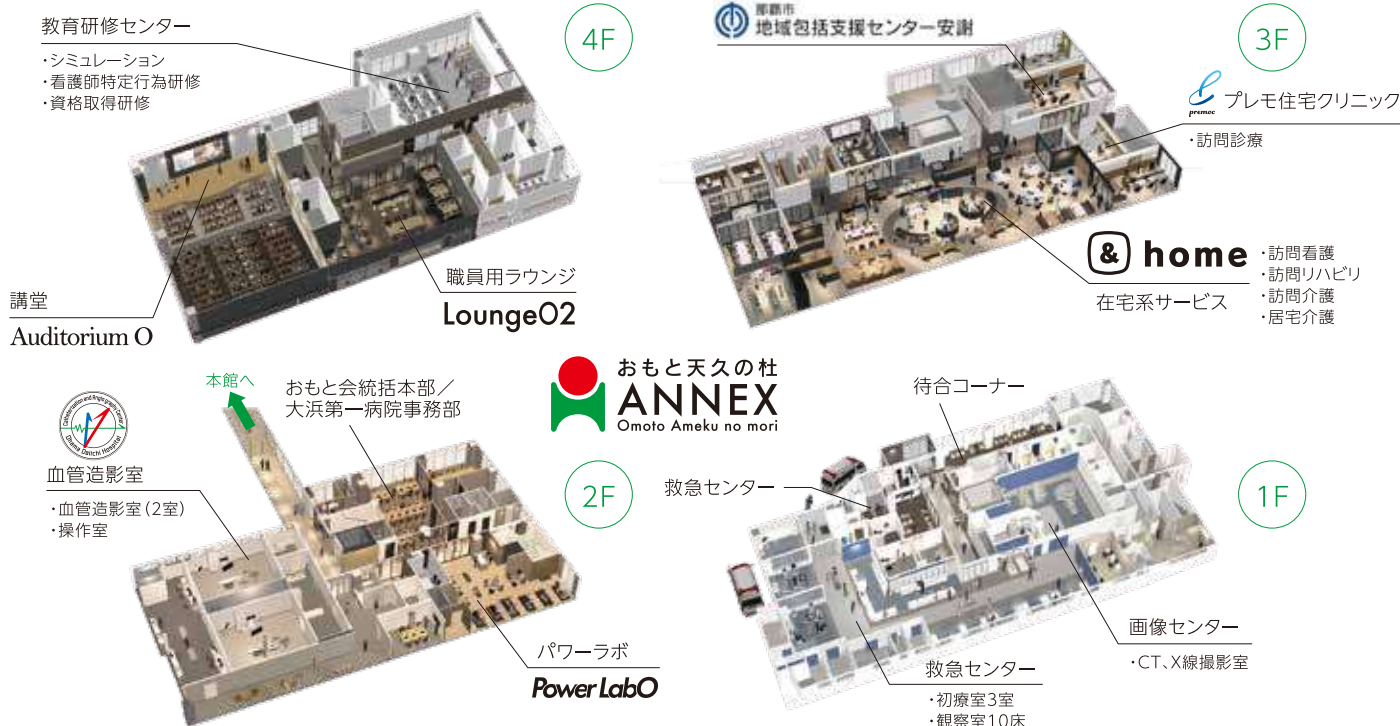


お話し／おもと会グループ石井隆平理事長代行兼統括本部長

こうした背景から、おもと会グループは2023年から次の3つのプロジェクトを進めてきました。

- ① 本館改修工事
- ② 新棟増築工事・渡り廊下工事
- ③ 在宅系サービス事業の集約

これらを総称して PROJECT CONNECT と呼んでおり、それを具現化したのが新棟であり、進化・深化した天久の杜なのです。また、CONNECTには、医療と介護、病院と在宅などといった「つながり」を実現するという決意が込められています。では、各フロアの特徴的な部分をあげてみましょう」



おもと天久の杜 ANNEX 施設概要

救急から在宅、教育まで 多彩な役割を持つ

1階

増加する高齢者の搬送にも対応するため、従来の救急センターを1.5倍のスペースにしました。感染症外来（発熱外来）は、コロナ時に設置したプレハブで行列がでたり、寒中长時間待たせたりした経験も踏まえ、今後も起きるであろうパンデミックに備えて整備しました。平時にも検体を外からウォークインで取れたり、車寄せでも取れたり、陰圧といって空気の流れをコントロールすることも可能になりました。

2階

PowerLab Oは、比較のお元気な高齢者が通うことで、筋力を維持し、現状を長く続けていただくための施設です。雰囲気作りにもこだわりました。ジム感覚で元気な方も通いやすく、卒業後は天久の杜内にあるデイケアにつながることもできます。

3階

元々あった在宅系事業所を集め、この一角を『&home』と名付けました。集約したことで各事業所同士が連携しやすいようになっています。急性期である

第一病院との連携も従来以上にスムーズになります。

また、那覇市の地域包括支援センター安謝もこちらに移しました。例えば介護の相談に來られた方を、天久の杜の他のサービスや、ケア・クロッシング寄宮につなげたりできます。しかも第一病院があるので急性期・回復期ともつながります。

4階

当会の理念における教育的な部分にリンクする、職員や地域のためのフロアになります。

まず講堂の Auditorium O（オー）おもと会グループには学院・学校の学生や非常勤職員を含めると約3000人が所属しており、教育や研究に関する発表会や学会などもかなりありますので、ある程度の人数が集まれる場所が必要でした。ここは外部の方にもご利用いただけます。

ラウンジ Lounge O2（オーツー）は、職員はもちろん学生



3F 那覇市地域包括支援センター安謝



4F 教育研修センター



4F lounge O2



4F Auditorium O

も利用でき、休憩、食事、資格取得の勉強、面談など、幅広く活用できます。

教育研修センターはスペースが従来の1.5倍くらいになりました。介護職員初任者研修、看護師特定行為研修も実施できます。また、眠りSLEEPやスマートベッドシステムなど、先端システムの練習も可能になりました。

新棟の完成により、天久の杜には救急から急性期、回復期、予防のための健診センター、パワリハビリ、デイケア、在宅系研修・教育までそろいました。まさに理念が形になり、医療・保健・福祉の一体化もより強化されたといえます。



1F救急センターの広々とした診察室。



救急センターの観察室は10床のステイベッドを備えます。



救急センターには専用の画像センターも整備。右はCT(コンピュータ断層撮影装置)、左はX線撮影装置(レントゲン)。



1F救急センター & 2Fカテーテル・血管造影センター

ここが私の押しポイント

「1階は救急センターで、本館から引越してきた形となります。もちろん単に移ってきただけでなく、機能は大幅に強化されています」と大城病院長。

救急センターは従来の約2倍の広さとなっており、本館では2台しか置けなかったステイベッドが10台置けるようになっています。「これにより病棟が満床でも、こちらで患者さんの経過を見ることができですね」

また、従来ひとつだった初療室も3室となり、3人の重症患者に対応可能となりました。さらに、救急センター専用のCTとレントゲンも備えています。

「大浜第一病院は270床多

**救急センターは
機能と規模を大幅拡大**



大浜第一病院 大城康一病院長

くの診療科がある上24時間救急にも対応しています。年間3300〜3500の救急車を受け入れています。本館の救命センターは手狭で対応には限界がありました。しかし、ANNEXの運用開始でそれが改善される上、高齢者の救急対応も充実し、在宅系サービスを提供する3階の&Oneとの連携も強化できます」と病院長はその意義を強調します。

**より高度になったカテーテル・
血管造影センター**

2階はカテーテル・血管造影センターが本館から引越。同時に古かった機械を最先端タイプに更新し、循環器科、脳外科、シャント手術などで活用します。広さも県内トップクラスに拡大しました。「特に循環器系でのカテーテル治療がやりやすくなりました。1階の救急センターから2階へという流れもありますし、外来の患者さんでもこれらの設備を使っただけです」と大城病院長。「やはり急性期と慢性期をつなげられることは、今回のANNEX運用開始の大きな利点ですね」

1階・2階ともハードとして

はかなりの充実度ですが、マンパワー面はどうでしょうか。

「医師のマンパワー不足が進む中、多職種が専門性を発揮し、タスクシフトを進めることが必須となっています。タスクシフトを中心としたチーム医療をさらに強化することにより、医療の質と安全性を維持しながら持続可能な体制を築くことができると思います」

ハード・ソフト両面を充実させつつ、那覇地区における急性期中核病院としてさらなる貢献が期待されます。



2Fのカテーテル・血管造影センター。特に循環器科や脳外科分野でのカテーテル治療がやりやすくなりました。

3階は在宅系サービスを提供する事業所を集約した&homeと、那覇市地域包括支援センター安謝が入っているフロア。&homeはさらにプレモ在宅クリニックと、在宅総合ケアセンターなはで構成されており、後者の所長を務めるのが黒島さんです。

「基本的に那覇市安里にあったクリニックと介護事業の機能が移ってきたのが&homeですが、以前は1階と7階などと階で分かれていた事業所がワンフロアに集約されました。さらに仕切りをなくし、席も固定ではなく各自が自由に使えるようになっていきます」



在宅総合ケアセンターなは
黒島頼茂所長



明るく機能的な会議室。

ここが私の押しポイント

3F & home



席が自由な&homeは事業所同士の垣根もなく、情報共有がしやすいそう。

ここが私の押しポイント

3F プレモ在宅クリニック & 2F PowerLabO

3階にあるプレモ在宅クリニックは、クリニック安里が移転し、訪問診療に特化した新クリニックとして開設されました。名称も一新しています。

現在は医師2名、看護師2名の体制ですが、今後はスタッフを増員し、訪問診療の事業をさらに拡大していく予定です。事務長の下里さんは次のように語ります。

「プレモは大浜第一病院との相互協力を最大の強みとしており、救急対応から入院、そして退院後の在宅支援まで、シームレスな連携によって幅広い対応が可能です」

また、プレモ在宅クリニック訪問リハビリセンターは、クリニック安里訪問リハビリと大浜第一病院訪問リハビリが合併し、新たにスタートしました。県内でも最大規模のスタッフ数を誇り、理学療法士（PT）・作業

療法士（OT）・言語聴覚士（ST）の3職種がそろうことで、多様な患者のニーズに対応できる点が大きな特徴です。

2階にはPowerLabOがあり、半日型のデイサービスとして運動に特化した事業を展開しています。利用者の多くは要支援から軽度要介護の方で、その方々が安心して取り組めるよう、最新のトレーニングマシンを導入。ジム感覚で楽しく体を動かし、元気を取り戻していただくことをコンセプトとしています。

さらに、おもと天久の杜内には、半日型のPowerLabOのほか、一日型や70分の短時間型デイケアもあり、利用者の状況に応じて選択できるのも大きな特色です。こうした多様なサービスを通じて、利用者が長く健やかに暮らせるよう貢献していきます。



PowerLabOは最新の機器を導入したパワーリハビリ。



移転を機に訪問診療に特化しようになったプレモ在宅クリニック。



プレモ在宅クリニック下里真司事務長



プレモ在宅クリニック・リハビリセンターの
末吉珠代統括科長（右）と安村香代科長。



来賓の方々も登壇してテープカットが行われました。



落成記念式典はANNEX4Fの講堂AuditoriumOで挙行政され、県内外から多くの関係者が詰めかけました。



3Fの&homeもゲストの興味をかなり引いているようでした。



2Fのカテテル・血管造影センターを見学するゲストのみなさま。

来賓祝辞をいただいたみなさま



(株)東恩納組
東恩納惟
代表取締役社長



沖縄県若手経営者の会
G.O.K.U
古謝玄太代表



一般社団法人
沖縄県医師会
稲田隆司副会長



一般社団法人
日本医療法人協会
伊藤伸一会長



知念寛那覇市長

おもと天久の杜ANNEX落成記念式典

おもと天久の杜ANNEXの落成記念式典および内覧会が、令和7年9月27日に同施設で開催されました。
県内外から関係者多数が詰めかけ、新施設の完成を祝いました。

理事長の主催者あいさつ

式典ではまず、おもと会グループの石井和博理事長（石井隆平理事代読）が、主催者として次のようにあいさつしました。

「大浜第一病院は2009年に那覇市安里からこの天久の地へ移転し、成長を続けてまいりました。この15年で職員数は約2倍、標榜科は約3倍に拡大し、急性期から在宅まで、幅広い領域で地域に貢献できる体制を築くことができました。

そして次代への歩みとして『救急要請への迅速な対応』『高齢化進展への対策』『在宅系サビスの集約』を掲げています。

ここにはつながりを創る、つながりを守るという想いを込め、病院と地域、医療と介護、施設と施設、職種と職種を結びつけ、おもと会式の地域包括ネットワークをさらに強固にしていく決意でございます。

多くの関係者のご尽力により、おもと天久の杜ANNEXが形となりました。おかげさまでおもと会グループが理想とするハードが整いました。そのお披露目ができることに大きな感慨を覚えております。あらため

て心より感謝申し上げます。

これまで以上に私共を取り巻く業界の変化を的確に把握し、柔軟に組織体制を進化させることが求められます。本プロジェクトはまさにこうした社会的要請に応える取り組みであり、これからみなさまと連携しながら、また地域の方々とも手をたずさえ、一体となって沖縄の医療・介護の発展と人材育成に尽力いたします。そして、私共は沖縄の健やかな社会を作る存在として、地域のみなさまに寄り添い、貢献してまいります」

来賓祝辞からテープカット、内覧会へ

続いて、知念寛那覇市長、一般社団法人日本医療法人協会の伊藤伸一会長、一般社団法人沖縄県医師会の田名毅会長（稲田隆司副会長代読）、沖縄県若手経営者の会G.O.K.U.の古謝玄太代表、(株)東恩納組の東恩納惟代表取締役社長が次々登壇し、来賓祝辞を述べました。

そして、石井隆平理事長からおもと天久の杜ANNEXに関する説明とテープカットが行われ、閉会後は内覧会へと移っていききました。



オレンジカフェ・美らとみぐすくのご紹介

豊見城市では認知症への理解、普及啓発を図り認知症の人とその家族が、地域で安心して暮らせるまちづくりの推進を目的として「オレンジカフェ・美らとみぐすく」を毎月開催しています。

今回は7月のオレンジカフェで行ったオレンジガーデンングプロジェクトの様子を紹介します。こちらは『認知症にやさしいまちづくり』を目指し、認知症の啓発カラーであるオレンジ色の花を全国で咲かせて想いを共有しよう！というプロジェクトで、豊見城市では毎年9月の世界アルツハイマーデーに合わせて市役所で開催されるイベントでお花の苗を市民に配布しています。

苗づくりはとよみの杜環境整備課のご協力のもと毎年行なっていますが、昨年からの試みでオレンジカフェ参加者のみなさんと一緒に種植え作業をしています。とよみの杜のかりゆし広場にテントを設営し、万全の暑さ対策のもと楽しく行うことができました。

みなさんと一緒に汗を流して植えた種が苗となり、今年も市内にたくさんの花を咲かせてくれることでしょう。

オレンジカフェ・美らとみぐすくは、認知症について「知りたい」「相談したい」「仲間と話したい」など、さまざまな想いを持つみなさまに気軽に立ち寄っていただける場所です。

今後またたくさんの方と想いを共有し認知症にやさしいまちづくりに努めてまいります！

豊見城市地域包括支援センターとよみの杜
認知症地域支援推進員 佐々木 真琴

おもと園が厚労大臣表彰・奨励賞を受賞

暑さ残る10月15日、沖縄県保健医療介護部・高齢者介護課で、令和7年度「介護職員の働きやすい職場環境づくり厚生労働大臣表彰・奨励賞」の表彰伝達式がありました。出席者は、呉屋施設長 源河統括看護介護科長の2名。

今回の受賞にあたり、評価されたことはノリフトケアへの取り組みです。ノリフトケアの課題である、移乗に伴う利用者のケガを予防する取り組みが、ケアの質の向上、職員採用に効果をもたらした点を評価していただきました。沖縄県も、ノリフトを推進したいと話されていましたが、費用対効果に課題があることもお伝えし、ぜひ補助金を確保してくださいとお願ひしてきました。実現した際には、遠慮なく使わせていただきます。

特別養護老人ホームおもと園 施設長 呉屋 徹





アラビス・リッセル・カニラン(左)

フィリピン出身／介護福祉士4年目
特別養護老人ホームおもと園勤務
沖縄リハビリテーション福祉学院 2022年3月卒業

思いやりとプロ意識を大切に、優しく責任感のある介護福祉士を目指しています。

高齢者や障害を持つ人が、日々の生活の中で快適さや幸せを感じられるよう支援することが私の役割だと考えています。そのために、日本語の学習と介護の知識・技術の向上に力を入れながら、より質の高いケアを提供できるよう努力を続けています。

アラビス・ロニー・ジュニア・カニラン(右)

フィリピン出身／介護福祉士4年目
特別養護老人ホームおもと園勤務
沖縄リハビリテーション福祉学院 2022年3月卒業

日本に来る前は、言葉の壁や生活習慣の違いに不安がありましたが、来日後は日本語学校へ通いアルバイトを通して、日本で働くための準備を進めました。

現在は介護福祉士として働く中で、日本語会話の難しさや知識・経験不足を感じることもありますが、学校や実習で学んだことを活かしながら、頑張って日々成長したいと思っています。

ガーデニング・ワンポイント vol.8



土袋とコンテナ栽培



今回は小さくてどこでも設置可能な移動式ミニ畑を紹介します。場所を選ばず移動が容易で、必要最低限の資材で栽培できて、コスパも良好です。

移動式ミニ畑の作り方

- 用意するもの
●コンテナ ●培養土20~25Lくらい
●トレー ●植えたい野菜の苗
- コンテナに、トレーを入れます。トレーは量販店で買えます。(トレーを入れるのは、土袋が地面から浮いて水はけと風通しが良くなるため) 写真①
- 培養土を袋のまま使用しますので、水抜き穴を適当に開けて、棒等を使って裏面に約10cm間隔で20箇所ほど穴を開けます。写真②
- 培養土をひっくり返してコンテナに入れます。これでミニ畑の完成です。あとは袋にカッター等でバツェンに切り込みを入れ、中に折り込む丸く切り取り、好きな野菜を植えるだけです。写真③
- 今回は、栽培が簡単なサニーレタスとリーフレタスを植えてみます。開けた穴に苗を植えてジョウロやホースで水をたっぷり与え、あとは栽培・収穫するだけです。写真④



写真①



写真②



写真③



写真④

【ワンポイント】苗が定着したら、適量に薄めた液体肥料を週1回程度ジョウロで与えます。また、コンテナは頑丈で持ち手もあるので、日差しがよく当たる場所に移動したり台風時の一時避難にも活用できて便利です。みなさまも一度お試しください。

おもととよみの杜 環境整備課 古堅 宗尚

聴こえやの識 言豆知

05

「辛い物やお酢でムセる！」
それ実は喉が元氣な証拠です！

「辛い物を食べたときに咳き込んだ」「お酢を口にしたらムセた」——こんな経験はありませんか？「一見「飲み込み」に失敗した」と思える反応ですが、実は体の大切な防御システムがしっかり働いている証拠です。

私たちの喉には「TRPチャネル」と呼ばれるセンサーがあります。これは温度や化学物質に反応する仕組みで、唐辛子の辛味成分カプサイシンやお酢の酸刺激によってスイッチが入ります。そのとき、神経の末端から「サブスタンスP」という物質が放出され、脳の「飲み込み」を指示する司令塔に信号が届きます。すると、飲み込む動きやムセて外に押し出す動きが自動的に始まり、食べ物や刺激物が気管に入らないよう守ってくれるのです。

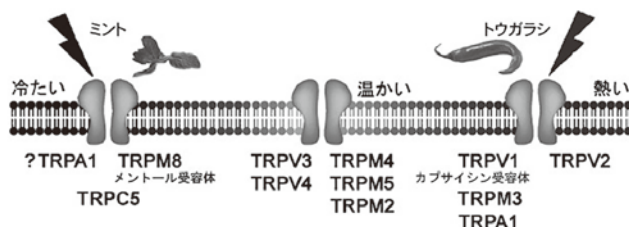
年齢を重ねると、このサブスタンスPの量が減り、飲み込みを始めるスイッチが入りにくくなる

ことがあります。その結果、食べ物や飲み物が気管に入りやすくなり、誤嚥性肺炎の危険が高まります。逆に、辛味や酸味でTRPチャネルを刺激するとサブスタンスPが分泌されやすくなり、「飲み込みのスイッチ」が入りやすくなること期待できます。つまり「辛い物やお酢でムセる」とは、喉の神経や反射がしっかり働いているサインなのです。

もちろん、無理に辛い物や酸っぱい物を摂る必要はありませんが、日常の食事で少し取り入れることは、飲み込む力のトレーニングにもつながります。ムセるのは「失敗」ではなく「体の守り」。そう思うと、辛さや酸っぱさも心強い味方を感じられるのではないのでしょうか。

温度感受性TRPチャネル

11の温度感受性TRPチャネルが活性化される温度域、冷刺激から熱刺激まで幅広い温度域で活性化。体温近傍の温度で活性化するものもある。



温度感受性TRPチャネルとその刺激物質
(富永真琴・Piezoチャネル・TRPチャネルの発見、肥満研究29(1): 8-12, 2023より転載)

沖縄リハビリテーション福祉学院 言語聴覚学科専任教員 新城 亮太